

鹿児島市立美術館美術講演会

令和5年度美術講演会は、彫刻家で鹿児島大学教育学部教授の池川直氏をお迎えして、「想いをつくる」という演題で開催します。

池川氏のこれまでの制作に関わる貴重な話を

お聴きできるまたとない機会です。多数のご参加お待ちしております。参加をご希望の方は、往復はがき、メール、専用申込フォームからお申込みください。



期日：1月13日(土)
時間：14時から15時30分
会場：当館講堂(地下1階)
参加料：無料
対象：どなたでも
定員60人程度(お申込み順)



1958年 香川県高松市生まれ
彫刻家 / 鹿児島大学教育学部教授

学芸講座 「みんなでつくる街なか美術館 ～ぶらり彫刻めぐり」

鹿児島県内の公共の場所(屋外)に設置してある彫刻作品の情報を募集し、公開している「続 みんなでつくる街なか美術館～ぶらり彫刻めぐり」に関連した学芸講座を開催します。屋外彫刻作品の作家や作品について、画像を見ながら楽しむ講座です。

期日：1月27日(土)
時間：14時から15時
会場：当館アトリエ1
参加料：無料
対象：どなたでも
定員：24人



2023年 冬号
No.26



鹿児島市立美術館 | KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館

〒892-0853

鹿児島市城山町4番36号

TEL(099)224-3400



冬の所蔵品展 (西洋美術+郷土作家+特集コーナー)

ミニ特集：大正噴火110年 桜島のすがた

会期：12月12日(火)～3月3日(日)

当館のコレクションを紹介する所蔵品展では、黒田清輝をはじめとする鹿児島ゆかりの作家の作品、そして19～20世紀の西洋美術の流れをたどる展示を行っています。今回の所蔵品展では、冬の季節を感じさせる作品や、年末年始を迎える時期にちなみ、干支の龍、松竹や鶴、旭日などのおめでたいモチーフの作品、そして郷土作家・橋口五葉による年賀状なども紹介します。ミニ特集では、2024年が大正大噴火110年の節目であることから、桜島を描いた作品を展示します。1914年1月14日に発生した大正大噴火は、島であった桜島が大隅半島と陸続きになったほどの溶岩流出だけでなく、度重なる地震や高さ1.5mにもおよぶ降灰など、甚大な被害をもたらしました。偶然にも黒田清輝は実父の病氣見舞いのため帰省中であり、目撃した噴火や災害の状況を6点の油彩に残しました。彼が唯一鹿児島島の風景を描いた作品でもある《桜島爆発図》は、刻々と変化する桜島を即興・体感的に描き、黒田が見て感じたままの様子を臨場感たっぷりに伝えます。



冬の所蔵品展展示風景

学芸講座 「黒田清輝の足跡を訪ねてーパリ、そしてグレー」

令和6年の黒田清輝の没後100年にあわせて、フランス留学中の1884～93年の足跡を紹介する学芸講座を開催します。

期日：2月18日(日)
時間：14時から15時30分
会場：当館アトリエ1
参加料：無料
対象：どなたでも
定員：24人



黒田清輝《自画像》1889年

美術講座 「銅版画入門～エッチングに挑戦！」

講師に日置誠氏(鹿児島高等学校教諭・県美術協会会員)をお招きして、銅板に刻んだ線画を薬剤で腐食させて版をつくる、エッチングの技法をつかった版画に挑戦します。

期日：2月24日(土)
時間：10時から16時 会場：当館アトリエ1
参加料：1,500円/定員：20人(中学生以上)
申込締切：令和6年2月15日(木)※要申込



講師制作参考作品

無料開放日のお知らせ

毎月第3日曜日は、小・中学生は無料開放日です。所蔵作品展+小企画展を無料で鑑賞いただけます。

1月21日(日)、2月18日(日)



とこなみまさよし 富士 床次正精 作 《富士》 冬の所蔵品展では展示していません。

制作年不詳 油彩・キャンバス 53.7×80.7 cm
みなさんは富士山を実際に見たことがありますか。多くの鹿児島のの人々にとって山と言えば桜島ですが、富士山は何と桜島の3倍以上の高さを誇ります。あまりに高いので、山頂に積雪している姿がそのシンボルとなっています。富士山は日本の山なので、当然日本の絵の技法で描かれてきました。紙に墨、あるいは絹に岩絵の具などといった素材を用います。それが絵の作者床次正精の生きた明治の頃になると、ヨーロッパの絵の描き方が日本にも入ってき始め、布や板に油絵具などの素材でも描くようになってきます。同じ山という存在ながら、ある国では主に水墨画で様式的に描かれ、ある国では主に油彩画で迫真的に描かれてきたというのも、東西の文化の違いといえはそれまでですが、不思議な話ですね。床次は、独学で見いだした油絵のリアルな技法で富士山の表現に挑戦しました。

